

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E132M003		家庭科授業研究(中等) (Studies in Teaching of Home Making (Junior High School))															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	4	教育学部 平成31年度以前入学生用			氏名 財津 庸子 E-mail yzaitsu@oita-u.ac.jp 内線 7601											
授業の概要	中学校・高等学校家庭科の授業づくりについて、個人でテーマを決めて、教材研究・教材開発・模擬授業・省察・改善案作成を一貫して行うことにより、実践力を高める。そのために、附属中学校または公立中学校等での参与観察等を行い、教育現場での実際の指導の様子を学び、実際に活用できる教材開発を行い、模擬授業や可能であれば協力校での授業実践により検証し、改善案まで検討する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 家庭科指導法(中等)、家庭科授業論をふまえて、中学校・高等学校家庭科の授業づくりを構想する。																	
目標2 個人でテーマを決めて、教材研究・教材開発・模擬授業をする。																	
目標3 模擬授業や協力校での授業を省察し、改善案を作成する。																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 中学校・高等学校家庭科の授業づくりの基礎的事項の確認																	
2 中学校・高等学校家庭科の授業の参与観察																	
3 参与観察から学んだことについての討論とまとめ																	
4 テーマ決定のための実践事例収集と整理																	
5 中学校家庭科の授業づくりについての個人テーマの決定・計画作成																	
6 テーマに即した中学校・高校家庭科の教材研究1(実習を含む授業における教材)																	
7 テーマに即した中学校・高校家庭科の教材研究2(実習を含まない授業における教材)																	
8 教材開発1(実習を含む授業における教材)																	
9 教材開発2(実習を含まない授業における教材)																	
10 模擬授業1(実習を含む授業)																	
11 模擬授業の改善																	
12 模擬授業2(実習を含まない授業)																	
13 模擬授業の検証																	
14 教材および指導案の改善案作成																	
15 全体のふりかえりとまとめ																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	実践例の収集・分析、授業の参与観察、教材研究・開発、指導案作成、模擬授業、授業実践、				工夫	その他の										
ニテ	B:意見の表現・交換																
ンイ	C:応用志向																
グ	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	中学校・高等学校の家庭科教科書・中学校学習指導要領解説家庭編(平成29年)、高等学校学習指導要領解説家庭編(平成30年)、参考書の講義該当箇所の予															
	学修	習(15h)															
	事後	中学校・高等学校の家庭科教科書・中学校学習指導要領解説家庭編(平成29年)、高等学校学習指導要領解説家庭編(平成30年)、参考書の講義該当箇所の復															
	学修	習(15h)															
教科書	文科省	中学校学習指導要領解説 技術・家庭編、				中学校家庭科教科書											
	文科省	高等学校学習指導要領解説 家庭編、				高等学校家庭科教科書											
参考書	伊藤葉子編著「新版 授業力UP 家庭科の授業」日本標準(2018)、「責任編集 牧野カツコ・お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会著「アクティブラーニングが育てる これからの家庭科」地域教材社(2017)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート	50%															
	課題	50%															
注意事項																	
備考	この科目は『地域創生教育科目』です。実習をとまなう教材研究の場合、自己負担が生じることがある。																
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	中学校・高等学校の家庭科教員
実務経験を いかした教 育内容	実際の教育現場における指導経験や専門的知識・技能が、学校教育現場の理解に基づく指導のあり方や指導案等に活かす。